

第 82 回日本医学会定例評議員会

平成 27 年 2 月 18 日 (水) 於：医師会館小講堂

午後 2 時開会

議長(高久史磨日本医学会長) 時間になりましたので、ただ今から第 82 回日本医学会定例評議員会を開催いたします。ご多忙のところをお集まりいただきまして、ありがとうございます。午後 1 時 55 分現在で 73 名、59%の方が出席になっています。この評議員会は 1/2 以上の出席があるということで、成立をいたしました。日本医学会規則第 13 条により、定例評議員会は毎年 2 月に開催し、学会長が議長となることが決まっていますので、私が議長として進行させていただきます。よろしくお願ひいたします。

日本医師会長挨拶

議長(高久日本医学会長) 最初に、日本医師会の横倉義武会長からご挨拶をお願いいたします。

横倉日本医師会会長 ご紹介いただきました日本医師会の横倉です。本日は日本医学会定例評議員会の開催にあたりまして、一言ご挨拶を申し上げます。

初めに、日本医学会ならびに各分科会が、わが国の医学および医療の水準の向上に向けて、平素より多大なご尽力をいただいていることに対し、衷心より敬意を表する次第です。

医療を取り巻く問題にはさまざまなものがあり、その中には行政や学会を含めて解決を図っていかねばならない問題も多数あります。一例を挙げますと、昨年 12 月に子宮頸がんワクチンについて、日本医師会・日本医学会の合同シンポジウムを本会館で開催いたしました。高久学会長に座長をお務めいただきました。

終了後の記者会見におきまして、多様な症状を

呈する患者の救済や支援体制の構築に向けて、日本医師会・医学会と行政が共に協力体制をとること、また国においては、ワクチン接種のあり方についてエビデンスに基づく検証を行い、結論を得るべく努力すること、また、実際に診療にあたる実地医家のためのマニュアルを、日本医学会・医師会と共に作成していくことなどが発表されたところでした。

日本医師会といたしましては、今後とも引き続き日本医学会と協力して、日本の医療・学問の進歩を国民の皆様を提供するべく、絶え間なく努力を続けてまいりたいと考えています。さらに昨年 4 月に新たに設立されました一般社団法人日本医学会連合とも連携を深め、日本の医療・医学をリードする学術専門団体として、共に歩んでまいりたいと思っています。

日本医学会ならびに各分科会が今後ますますご発展されますようにご期待申し上げ、また、4 月に開催されます「日本医学会総会 2015 関西」が成功裏に終わることを祈念いたしまして、ご挨拶とさせていただきます。どうもありがとうございました。

議長(高久日本医学会長) 横倉先生、どうもありがとうございました。

■議事録署名人

議長(高久日本医学会長) これから議事に入ります。最初に議事録の署名人の選出をいたしたいと思います。恒例によりまして議長が指名することになっていますので、私から指名させていただきます。基礎・社会系は日本寄生虫学会の太田伸生先生、臨床医学系は日本皮膚科学会の天谷雅行

第 82 回日本医学会定例評議員会出席者名簿

日本医史学会	坂井 建雄	日本ウイルス学会 (連)	竹田 誠	日本大腸肛門病学会	杉田 昭
日本解剖学会	仲嶋 一範	日本麻酔科学会 (連)	山田 芳嗣	日本超音波医学会 (連)	廣岡 芳樹
日本生理学会	加藤 総夫	日本胸部外科学会 (代)	篠田 雅幸	日本動脈硬化学会	佐藤 靖史
日本生化学会	嶋田 一夫	日本脳神経外科学会	嘉山 孝正	日本東洋医学会	石川 友章
日本薬理学会 (代)	谷内 一彦	日本輸血・細胞治療学会 (欠)		日本小児神経学会 (連)	山内 秀雄
日本病理学会 (連)	坂元 亨宇	日本医真菌学会	河野 茂	日本呼吸器外科学会	奥村明之進
日本癌学会 (連)	三木 義男	日本農村医学会 (連)	羽田 明	日本医学教育学会	伴 信太郎
日本血液学会	小澤 敬也	日本糖尿病学会 (連)	植木浩二郎	日本医療情報学会	大原 信
日本細菌学会 (連)	八木 淳二	日本矯正医学会 (連)	加藤 昌義	日本疫学会 (連)	西 信雄
日本寄生虫学会	太田 伸生	日本神経学会	高橋 良輔	日本集中治療医学会	氏家 良人
日本法医学会 (欠)		日本老年医学会 (欠)		日本平滑筋学会 (連)	羽生 信義
日本衛生学会	遠山 千春	日本人類遺伝学会 (連)	高田 史男	日本臨床薬理学会	渡邊 裕司
日本民族衛生学会 (連)	大塚柳太郎	日本リハビリテーション		日本神経病理学会 (連)	秋山 治彦
日本栄養・食糧学会	近藤 和雄	医学会	水間 正澄	日本脳卒中学会	吉峰 俊樹
日本温泉気候		日本呼吸器学会	三嶋 理晃	日本高血圧学会 (代)	田村 功一
物理医学会 (連)	倉林 均	日本腎臓学会 (連)	内田 俊也	日本臨床細胞学会	佐々木 寛
日本内分泌学会 (代)	肥塚 直美	日本リウマチ学会	高崎 芳成	日本透析医学会	新田 孝作
日本内科学会	小池 和彦	日本生体医工学会 (代)	村垣 善浩	日本内視鏡外科学会 (連)	松本 純夫
日本小児科学会 (代)	清水 俊明	日本先天異常学会 (欠)		日本乳癌学会 (連)	秋山 太
日本感染症学会	岩田 敏	日本肝臓学会	金子 周一	日本肥満学会	春日 雅人
日本結核病学会	山岸 文雄	日本形成外科学会 (連)	平林 慎一	日本血栓止血学会	浦野 哲盟
日本消化器病学会	下瀬川 徹	日本熱帯医学会 (代)	狩野 繁之	日本血管外科学会 (欠)	
日本循環器学会 (連)	代田 浩之	日本小児外科学会 (連)	黒田 達夫	日本レーザー医学会	古川 欣也
日本精神神経学会 (欠)		日本脈管学会 (代)	林 宏光	日本臨床腫瘍学会 (連)	田村 研治
日本外科学会 (連)	矢永 勝彦	日本周産期・		日本呼吸器内視鏡学会 (欠)	
日本整形外科学会	岩本 幸英	新生児医学会 (代)	高橋 尚人	日本プライマリ・	
日本産科婦人科学会 (連)	岩下 光利	日本人工臓器学会	松田 兼一	ケア連合学会	丸山 泉
日本眼科学会 (連)	大鹿 哲郎	日本免疫学会 (欠)		日本手外科学会	三上 容司
日本耳鼻咽喉科学会	小川 郁	日本消化器外科学会	森 正樹	日本脊椎脊髄病学会	持田 讓治
日本皮膚科学会	天谷 雅行	日本臨床検査医学会	村田 満	日本緩和医療学会	細川 豊史
日本泌尿器科学会 (連)	穎川 晋	日本核医学会	伊藤 健吾	日本放射線腫瘍学会 (代)	根本 建二
日本口腔科学会	丹沢 秀樹	日本生殖医学会	苛原 稔	日本臨床スポーツ	
日本医学放射線学会	杉村 和朗	日本救急医学会	行岡 哲男	医学会 (連)	松本 秀男
日本保険医学会	清水 功基	日本心身医学会 (連)	吉内 一浩	日本熱傷学会 (連)	原田 輝一
日本医療機器学会	安原 洋	日本医療・		日本小児循環器学会 (代)	賀藤 均
日本ハンセン病学会	後藤 正道	病院管理学会	池田 俊也	日本睡眠学会	伊藤 洋
日本公衆衛生学会 (連)	櫻山 豊夫	日本消化器		日本磁気共鳴医学会 (欠)	
日本衛生動物学会	松岡 裕之	内視鏡学会 (代)	河合 隆	日本肺癌学会 (代)	早川 和重
日本交通医学会	花岡 一雄	日本癌治療学会	西山 正彦	日本胃癌学会 (欠)	
日本体力医学会	下光 輝一	日本移植学会 (連)	猪股裕紀洋	日本造血細胞	
日本産業衛生学会 (連)	柳澤 裕之	日本職業・災害医学会 (欠)		移植学会 (連)	森 毅彦
日本気管食道科学会	桑野 博行	日本心臓血管外科学会	高本 眞一	日本ペイン	
日本アレルギー学会	斎藤 博久	日本リンパ網内系学会 (欠)		クリニック学会 (代)	神山洋一郎
日本化学療法学会 (連)	川名 明彦	日本自律神経学会	黒岩 義之		

(連)：連絡委員 (代)：代理出席 (欠) 欠席

役員 高久会長 清水・久道・門田各副会長
 (幹事) 野田, 相澤, 池田, 小川, 奥村, 八木, 中尾, 北村, 千田, 齋藤, 成宮, 實成, 幕内, 岡井, 寺本
 (欠席 里見, 野田, 金澤)

総会 (第 29 回)：井村会頭, 三嶋準備委員長, 高橋プログラム委員長, 杉村展示委員長, 平井幹事長,
 (第 30 回)：齋藤会頭, 高橋準備委員長

先生に議事録署名人をお願いしたいと思います。
よろしくお願ひいたします。

■次第（議事概要）説明

議長（高久日本医学会長） 次に、この評議員会の議事概要ですが、初めに、報告事項として「第29回日本医学会総会2015関西」の準備状況について、次に、第30回日本医学会総会の状況、そのあと、平成26年度の年次報告ならびに日本医学会の予算について報告をさせていただきます。協議事項として、平成27年度の事業計画、また、日本医学会加盟学会の件につきましては、久道副会長からご報告をいただきたいと思ひます。そのあと、日本医学会 医学雑誌編集ガイドライン（案）についてご報告をいたします。質疑応答の時間をとりまして、3時半に日本医学会の定例評議員会は閉会し、引き続き3時半から日本医学会連合の臨時総会を開催いたしますので、よろしくお願ひいたします。

それでは最初に、私のほうから簡単にご挨拶を申し上げます。

■日本医学会長挨拶

高久日本医学会長 本日は足元の悪いところをたくさんのご出席いただきまして、ありがとうございました。また、井村裕夫先生には、第29回日本医学会総会の準備状況のご報告のためご出席いただきまして、ありがとうございました。

先ほど横倉日本医師会会長からもお話がありましたように、日本医学会連合が昨年4月に発足いたしましたして、日本医学会と日本医学会連合が並立というような形になっていますが、これは日本医師会の定款の変更ということが必ずしもスムーズにいかないような状況ですので、時間をかけて、現在の並列という形を解消していくよう努力するつもりです。その点については、皆様方にもいろいろご意見があると思ひますが、もうしばらくお時間をいただきたいと思ひています。

■第29回日本医学会総会準備状況

議長（高久日本医学会長） 報告事項としてまず、

「第29回日本医学会総会準備状況の件」について井村会頭からご報告をいただきたいと思ひます。

井村第29回日本医学会総会2015関西会頭 ご紹介をいただきました、第29回日本医学会総会2015関西の会頭を務めております井村です。本日は、このようなご挨拶の機会をお与えいただき、大変ありがとうございました。昨年伺ったときには、まだまだ先のことであると思ひていましたが、ついに4月11日まで7週間ほどになりました。

この医学会総会の1つの行事であります医学史展、お手元に「医は意なり」という資料が入っていますが、これはすでに2月11日に始まり、私もいよいよ本格的な総会へのカウントダウンが始まったという気持ちでおります。

今回の総会は、いくつかの意味で大変大きな意義を持っているのではないだろうかと思ひています。その1つは、日本がいよいよ本格的な少子高齢社会に入ったということです。これは申し上げるまでもないことですが、戦後のベビーブームで生まれたいちばん最後の年の人が、今年の1月で全員が65歳以上になり、いよいよ本格的に高齢者の仲間入りをしたわけです。あと10年経ちますと、その人たちが75歳を超え、医療費も介護費も爆発的に増えるという状況にあります。そういうなかで、これから医学は何を重点に研究を展開すべきか。また、医療制度をどのように変えていくのか。そのことは非常に重要な課題でありまして、医学会総会でそのことをぜひ議論したいと思ひました。

したがって、今回はプログラム委員会を立ち上げ、そのプログラム委員会で重要課題を選んでいただき、そのうえで分科会のほうに演者をご推薦いただく。そういうことによって、個々の学会ではあまり取り上げられないような横断的な課題を並べたつもりです。これについてはあとで準備委員長から詳しくお話があると思ひています。

2番目に、前回の28回日本医学会総会は、準備が万端整っていたにもかかわらず、東日本大震災のために完全な形での開会ができませんでした。したがって、今回は8年ぶりの医学会総会ということになります。8年といいますと、われわれ年

寄りにはつい前のことのように思いますが、その間に6万人を超える医師が生まれているわけですから、やはりしっかりとこの医学会総会を開催しないと、もう若い人に忘れられるのではないだろうかという心配もあります。

それから、先ほどからお話がありましたように、新しく日本医学会連合が一般社団法人として発足して、それを受けた最初の医学会総会です。したがって、私どもといたしましては、ぜひ今回の医学会総会を成功させて、それを将来に何らかの形でつないでいけるようにしたいと考えて、日夜努力をしています。

われわれの最大の問題は、登録がなかなか思うように伸びないということです。できるだけ早く確保するため、いちばん最初の安い登録を10月末で締め切りまして、そこには1万人ぐらいが登録してくれたのですが、そのあとがなかなか伸びなくて、現在困っているところです。

本日ここにご出席の先生方は大変影響力の大きい方々ばかりですので、ぜひそれぞれの大学とか同門会等に声をかけていただいて、1人でも多くの方にこの医学会総会に参加していただけるようにしていただきたいと考えています。プログラムのほうはかなり議論をして精選したつもりですので、意義のある総会であるご満足いただけるのではないかと考えています。どうぞよろしくお願いたします。

それでは三嶋委員長から。

三嶋第29回日本医学会総会準備委員長 準備委員長の京都大学の三嶋です。お手元の資料の中の「日本医学会事業計画」の1ページ目、それから「日本医学会年次報告」の1ページ目をご覧ください。

まず、事業計画の1ページ目をご覧くださいましたら、開催日程が書いてあります。今の井村会頭のお話にありましたように、学術講演と学術展示は、京都の4会場を中心に4月11日から13日に開催されます。一般公開展示は市民向けの展示ですが、これは神戸国際展示場ということで、若い学童たちにも来ていただきたいということで、春休みに設定しています。医学史展は、すでに始

まっています。医総会WEEKというのは、学術講演会前週から約9日間いろいろなイベントを行う予定になっています。

日本医学会年次報告のほうをご覧ください。この医学会総会のいわゆる柱は3つありまして、1つはオール関西ということ。12の大学、国立循環器病研究センター、6つの地区医師会ということで、オール関西で行っています。

もう1つの特徴は分野横断的だということです。今、井村会頭がおっしゃいましたように、分野横断的な20の柱を設立し、医学・医療・きずなの3つにカテゴリー化し、それぞれいろいろな職種の方々に出させていただいて討論することになっています。

それからもう1つは、開かれた医学会総会ということです。一般的な公開展示だけではなく、学術展示にも一部市民が参加できる形にしています。今年は去年報告しましたものに加えて、学術講演会の開会式と閉会式の特別講演を報告させていただきます。

開会講演は、山中伸弥先生に「iPS細胞研究の現状と医療応用に向けた取り組み」。会頭講演は、井村先生から「日本の未来のために、いま医学・医療は何をすべきか」。日本医師会長講演として、横倉先生から「日本医師会の医療政策～健康な高齢社会の構築を目指して～」。日本医学会会長講演として、高久先生から「わが国の医学研究の方向性」。記念講演として、日野原先生から「日本における高齢化と真の健康社会」。そして閉会講演として、稲盛様から「医学と倫理—利他の心で世のため人のために尽くす—」などが予定されています。特別企画としては、「地域包括ケアと医師の使命」「勤務医と地域医療圏連携」などの企画を練っています。

ブレイベント計画として「医療チーム学生フォーラム」として、現役の学生さんに出させていただきます。3年前からcultivateしてまして、合宿などをして、今後の日本の医療のあり方をディスカッションしてました。当日この20の柱の1つとしてこの成果を報告していただく予定です。

年次報告の2ページに「近畿医師会連合ブレ

イベント」と記載のとおり、すでに9月からいろいろな地区医師会の先生方とプレイベントをしています。

学術展示は京都国際会館で行います。近未来のかかりつけ医、IT、ロボットテクノロジー、そしてiPS細胞という4つのテーマを設定しています。

一般公開展示は「未来医 XPO'15」と名づけました。スマートアイランド、メディカルアイランド、ヘルスケアアイランド、サイエンスアイランドの4つを設定しています。

医学史展では、「医は意なり 命をまもる知のあゆみ」ということで、単に昔の医学の紹介だけではなしに、現在までつながった一連の有機的な企画をしています。

その他いろいろな企画をしています。4年間をかけて論議を尽くした内容で、素晴らしい内容だと自負しています。できるだけたくさんの方々に来ていただきたいと思っておりますので、よろしくようお願い申し上げます。

井村第29回日本医学会総会会頭 もう一点だけよろしいですか。お手元にこういったファックスでお申し込みいただける用紙がありますので、ぜひこれを使っていただいたらよいと思います。初めはインターネットでやったのですが、どうもうまくいかないと言われて、あまり評判が良くないようでしたので、ぜひこのファックスを使っていただいて登録をお願いできればと思います。

議長(高久日本医学会長) このプログラムをご覧になってお分かりのように、井村先生と三嶋先生のご尽力で非常に多彩なプログラムが生まれていますので、ぜひご出席いただきたいと思っております。私も3日間フルに出席させていただいて、勉強をさせていただきたいと思っておりますので、よろしくご協力のほどお願いいたします。

第30回日本医学会総会準備状況

議長(高久日本医学会長) 次に「第30回日本医学会総会準備状況の件」で、この日本医学会総会関西に続きまして、4年後に開催予定の第30回日本医学会総会の準備状況と役員のご紹介を、会頭に予定されています齋藤先生からお願いいた

します。

齋藤第30回日本医学会総会会頭 国立病院機構名古屋医療センターの齋藤です。今お話がありましたように、昨年2月の第81回日本医学会定例評議員会におきまして、2019年の名古屋開催のご承認をいただきました。それ以来、名古屋大学をはじめとする愛知県下の4大学で、まず準備を始めたところです。

4年後はちょうど第30回、そして4年に1回ですので、120年目という節目の年でもあります。先ほどからお話がありますように、医学・医療を取り巻く環境・社会が大きく変わっている中で、この4年に1回の医学会総会をどのような形で企画・開催したらよいのかということを実際に考えています。間近に迫りました京都の総会の経験を教えていただき、かつ各分科会の先生方のご指導・ご協力を得ながら準備を進めたいと考えています。どうぞよろしく願いいたします。

今まで決まりました具体的なことにつきまして、準備委員長の高橋雅英(名古屋大学医学部長)からお話いたします。

高橋第30回日本医学会総会準備委員長 ご紹介いただきました準備委員長を賜っています、名古屋大学の医学研究科長をしています高橋です。現在までの開催概要の状況について、簡単に私のほうからご紹介させていただきたいと思っております。

まず役員については、齋藤英彦会頭、そして準備委員長の高橋に加えまして、副会頭には愛知県医師会長の柵木充明先生、それから次期名古屋大学総長に決まっています松尾清一先生にご快諾いただいております。事務局員については、名古屋大学医学部の前事務部長である青山正晴さんに引き受けていただけることになっています。その他、総務委員長には長谷川好規名古屋大学呼吸器内科教授、プログラム委員長には門松健治名古屋大学分子生物学教授、展示委員長には若林俊彦名古屋大学脳神経外科教授の先生方にご尽力いただくことになっています。

その他、広報委員長については名古屋市立大学、登録委員長については藤田保健衛生大学、式典委員長には愛知医科大学のほうにご協力いただける

ということになっていまして、現在、愛知県の4大学を中心に進めています、東海4県に加えて北陸地区の大学の先生方にも加わっていただいて、中部地区全体で取り組みを進めていきたいと思っていますところでは。

期間と開催地ですが、まず、中心である学術集会については4月12日から14日で、これは金・土・日になりますが、名古屋国際会議場において学術集会を開催いたしまして、その前に学術展示等を、ポートメッセなごやを中心に1週間程度の予定をしています。京都でも行われているようなさまざまなイベントを、市民向けの展示を加えて半年ぐらい前から、総会を盛り上げるためのイベントを進めていきたいと思っていますところでは。

名古屋での開催は、平成7年に飯島宗一会頭が務められて以来、24年ぶりということになります。中部地区の医学部あるいは医師会の先生方にご協力を賜って、良い会にしたいと思っておりますので、ぜひ先生方のご協力もよろしくお願ひしたいと思います。簡単ではありますが、私のほうから説明とさせていただきます。どうもありがとうございました。

2015(平成27)年度日本医学会事業計画

議長(高久日本医学会長) 次に、「平成26(2014)年度日本医学会年次報告の件」です。最初に、今年4月の「日本医学会総会2015関西」の準備状況で、先ほど井村先生、三嶋先生からご報告がありました。次に日本医学会幹事会が先ほど日本医師会館5階の会議室で開催されまして、この評議員会で議題になっています「平成26年度日本医学会年次報告」と「平成27年度日本医学会事業計画」、それから「日本医学会加盟学会」等についてご議論をいただきました。最後の日本医学会加盟学会につきましては、あとでこの評議員会でご審議をいただきたいと思っております。

次に4ページ、3は現在開かれている日本医学会の定例評議員会です。4が日本医学会シンポジウムで、日本医学会シンポジウムは3回開催いたしています。テーマは「健康社会を目指す医学・

医療の新たな展開」という題で、7月10日に日本医学会特別シンポジウムを開催しました。次に日本医師会と日本医学会の合同シンポジウムを、先ほども横倉会長がお話しされました「子宮頸がんワクチンについて考える」というテーマで開催しています。また、平成26年12月28日には、「がんの非侵襲的診断法の最前線」をテーマとして第146回シンポジウムを開催しています。その準備のための日本医学会シンポジウム企画委員会を開催しています。5ページに記載されています。

また、この日本医学会シンポジウムの記録はDVDとして各分科会にお配りしています。また、日本医学会シンポジウムの要旨を『日本医師会雑誌』に掲載しています。この掲載のページ5は、資料に示したとおりです。

次に6ページ、日本医学会公開フォーラム。日本医学会シンポジウムは医師や研究者を対象にしたものですが、一般の方を対象にしたフォーラムを開くということで、毎年2回開催しています。平成26年度には、第17回公開フォーラムを「肺がん—最新のトピックス」をテーマに平成26年6月21日に開催しています。

もう1回は今年の2月7日に、日本医学会総会2015関西のプログラム委員長が中心になりまして、高橋先生に総合司会をしていただきまして、「特別公開フォーラム～第29回日本医学会総会イベント～いのちを考える」を京都で開催しています。参加者は296名と、かなり多数の方が参加しておられます。この公開フォーラムのための企画委員会が、シンポジウムの場合と同じように開かれていまして6ページに企画委員のお名前などが載っています。

日本医学会医学用語管理委員会、これは脊山先生が委員長で、用語管理に関してさまざまな企画をしていただいています。また、分科会の方に集まっただく、日本医学会分科会用語委員会も12月19日に開催しています。ここに示したような5つのテーマについてご議論をいただきました。

8番目が日本医師会医学賞・医学研究奨励選考委員会、これは日本医師会の依頼を受けて日本医

学会が開催していきまして、医学賞につきましては東大の微生物学の畠山教授と、京都府立医大の酒井教授、それから東大の山本教授が、8ページに示したようなテーマで医学賞を受賞されています。また、医学研究奨励賞は14名の方が選ばれて、お手元の資料の9ページから10ページにわたってその方々のお名前が載せられていまして、昨年の11月1日の日本医師会設立記念医学大会において表彰され、また、受賞者の方からご講演をいただきました。また、その論文を『日本医師会雑誌』に掲載しています。

10ページ目に、日本医学会加盟検討委員会が開催されまして、この件に関しましては、あとで久道先生のほうからご報告をして、ご議論をいただきたいと思っております。

10ページの10、日本医学会臨床部会運営委員会は、10学会の基本領域学会と医学会のサブスペシャリティの2学会から構成されていますが、昨年度は日本医学会連合の委員会開催なども重なりまして、開催をしていません。

11ページ11番の日本医学会臨床部会運営委員会「専門医制に関する委員会」につきましては池田康夫先生が委員長ですが、ご案内のように、日本専門医機構の発足に伴って、この委員会が今度日本専門医機構と連携をとりながら、日本専門医制の発展に貢献したいと考えています。

12の日本医学会臨床部会運営委員会「遺伝子・健康・社会」検討委員会は信州大学の福嶋教授が委員長で、第9回の委員会を昨年の12月4日に開催しまして、下のほうに書いてありますが、主な議題は、血液検査による染色体異常の検査(NIPT)の現状報告と課題、それから遺伝性乳癌・卵巣癌総合診療体制制度、3番目が遺伝子医療、“遺伝子検査”ビジネスにまつわる動きなどについて討論されました。

12ページ、「母体血を用いた出生前の遺伝学的検査」施設認定・登録部会、この部会は定期的に関わっていて、NIPTを行う施設の認定をこの登録部会で行っています。

14の日本医学会臨床部会運営委員会「がん領域に関する作業部会」につきましては、昨年度は、

がんの認定制がスタートしたこともありまして、開催はありませんでした。

15の日本医学会利益相反委員会は、徳島大学名誉教授の曾根先生が委員長です。この委員会は非常に活発に活動を行っていきまして、まず、日本医学会がCOIのガイドラインのモデルを作り、このモデルを参考にして各学会のCOIのガイドラインをお作りいただくようお願いいたしまして、現在ほとんどの学会でお作りいただいたものと考えています。また、COIに関する第5回日本医学会利益相反会議を昨年の11月28日に開催しています。この会議の詳細は日本医学会のホームページに掲載していますので、ご参照いただきたいと思います。

次の14ページですが、日本医学雑誌編集者組織委員会。東京大学の北村聖教授が委員長で、この組織委員会のもとに、15ページにあります日本医学雑誌編集者会議が開催されています。日本医学雑誌の編集のあり方についてのいろいろな検討ならびに会議を開いています。この会議をJAMJEと呼んでいますが、JAMJEが中心となりましてアジア大会を東京でも開催しており、非常に活発に活動しています。

15番目の「日本医学会あり方委員会」、「日本医学会総会のあり方に関する作業部会」は、今後は齋藤先生が中心になられまして、日本医学会連合のほうのad hocの委員会として、引き続いて検討していただくことになっています。

16ページの20の移植関係学会合同委員会は、昨年の9月19日に厚労省で開催され、議題は「脳死した者の身体から摘出された臓器の移植施設について」、それから「臓器移植の適応評価の仕組みについて」議論をいたしました。

次に21番目の『日本医学会だより』は、本年度5月に51号、10月に52号を発行しています。その他の情報発信ということで、日本医学会は平成12年にホームページを開設いたしまして、分科会の協力を得て、本会のホームページと分科会のホームページとがリンクしています。たとえば昨年の5月1日には、「臨床研究の法制化には慎重な対応を」という声明をホームページに載せて

いますし、また、昨年の5月22日には、日本人間ドック学会、健保連から出された「新たな検診の基本検査の基準範囲」に関して、日本医師会と共同の記者会見を行いました。この問題について日本人間ドック学会の方々のご意見も聞いて、日本医師会・日本医学会として、合同の意見を出しています。

それから、先ほど横倉会長からお話がありましたように、昨年の12月10日には、日本医師会・日本医学会合同シンポジウム「子宮頸がんワクチンについて考える」を開きまして、そのあとに医師会と日本医学会の合同記者会見を開催いたしました。そのとりまとめを医学会として発表いたしました。お手元の資料のいちばん最後の29ページですが、HPVシンポジウムにおいての座長のとりまとめということで報告をさせていただいています。

それから、会議等の開催数ということで、17～18ページにありますような会議を開いていますし、また、その他としては「日本医学会の分科会一覧」、あるいは「平成27年日本医学会分科会総会一覧」「日本医師会年次報告書」「日本医師会会務報告」にも、日本医学会関連の記事を掲載する予定です。

次は、5月に出しました『日本医学会だより』、10月の『日本医学会だより』が出ていますし、23ページには先ほどご報告いたしました、「臨床研究の法制化には慎重な対応を」ということで、ならびに24ページには「新たな健診の基本検査の基準範囲（日本人間ドック学会・健保連）に対する日本医師会・日本医学会の見解について」。さらに27ページにも同じく、「日本人間ドック学会および健康保険組合連合会が公表した『新たな健診の基本検査の基準範囲』に対する日本医師会・日本医学会の見解について」の補足を出しています。

最後が、先ほど申しました12月10日開催の子宮頸がんワクチンに関する合同シンポジウムについての座長のとりまとめが掲載されています。これが日本医学会の平成26年度の報告です。この平成26年度の日本医学会の年次報告に関しまして、どなたかご意見・ご質問があればお伺いした

と思いますが、もしなければご了承いただいたものとさせていただきます。どうもありがとうございました。

次に、平成26年度の日本医師会の予算の中で、医学会の支出分についてご報告いたします。資料の6に「平成26年度日本医師会予算」として、医学会の支出の部が載っていますので、ご報告いたします。なお、来年度は日本医師会で予算全体の見直しが行われ、少し日本医学会の予算が減額されてきています。お手元の資料6をご覧ください。何かご質問・ご意見があればお伺いしたいと思いますが、よろしいでしょうか。よろしければ、お認めいただきたいと思います。

次に、2015年の日本医学会事業計画の件ですが、これに関しましても、お手元に「平成27年度日本医学会事業計画」があります。最初は第29回日本医学会総会の件で、先ほどご報告いただいたとおりです。日本医学会シンポジウムも1つだけ、平成27年6月4日開催の第147回シンポジウムが決まっており、「わが国の高齢者医療をめぐる諸問題」をテーマに、虎の門病院長の内先生を中心に開催いたします。次は12月の予定ですが、まだ題名は決まっていません。

それから、2ページ目に「日本医学会公開フォーラム」ですが、これは「前立腺がん」を7月4日に開催する予定ですが、10月開催予定の第2回の公開フォーラムもまだ決まっていません。

2ページ目の「医学用語管理事業」、3ページ目の「日本医師会医学賞・医学研究奨励賞選考委員会」「日本医学会加盟検討委員会」「日本医学会臨床部会運営委員会」、さらに4ページ目の日本医学会臨床部会「遺伝子・健康・社会」検討委員会、「母体血を用いた出生前遺伝学的検査 施設認定登録部会」「日本医学会臨床部会会議」「日本医学会利益相反委員会」「日本医学会分科会利益相反会議」「日本医学雑誌編集者組織委員会」「日本医学雑誌編集会議」「移植関係学会合同委員会」などは、26年度と同じ会議を開催する予定です。

2014 (平成 26) 年度日本医学会 新規加盟学会

議長(高久日本医学会長) 次に、平成 26 年度の日本医学会加盟学会の件につきまして、久道副会長からよろしく申し上げます。

久道日本医学会副会長 加盟検討委員会の報告をいたします。ただ今資料を配布していますので、それをご覧いただきながらお願いしたいと思っております。

平成 26 年度は、平成 26 年 5 月 15 日に新規加盟申請の公示をいたしました。7 月 31 日の締め切りまでに、お手元の資料 1 枚目にありますように、22 の学会から加盟申請がありました。最初に書面審査をすることになっていますので、13 名の日本医学会加盟検討委員会委員によって書面審査が行われました。

それから 10 月 22 日に、平成 26 年度の第 1 回日本医学会加盟検討委員会が開催されて、書面審査を通過した学会につきまして、審議の結果、今お手元に配布していますが、1 つの学会が認められました。その学会は日本病態栄養学会で、これを日本医学会加盟検討委員会として推薦して、平成 27 年 1 月 14 日の第 9 回日本医学会協議会に報告して了承を得ています。本日開催の第 11 回日本医学会幹事会でも了承を得られましたので、この評議員会にお諮りしたいと思っております。評議員会で了承を得られましたら、3 月 17 日に開催される第 13 回日本医師会理事会へ報告をし、最終的に機関決定することになります。それまでは本日の結果については、外に出さないようにしていただきたいとお願い申し上げます。

なお、この選考にあたっていろいろ議論がありましたので、その内容をかいつまんでご報告申し上げますと、日本病態栄養学会は、会員数が医師数よりも非医師数のほうが多いのですが、資料にありますように、全体で 7,977 名の会員構成のなかで医師が 1,797 名、非医師が 6,180 名となっていますが、最終的には、最後の段落にありますような総合判断を委員会としてはいたしました。

本学会は多くの医師、特に臨床医が多く加盟し

ている唯一の栄養分野の学会であり、臨床医、栄養研究者、管理栄養士が一堂に参加し、病態別に臨床予防医学的アプローチをするなど、疾病構造の変化と共に独自性・必要性は大きいと言えるということが 1 つと、それから執行役員の中で、医師の指導性がどうかというのがいつも議論になりますので、それは役員数のなかに 60% 以上の医師が占めているということもありましたので、これをお認めいたしましようということになりました。

これについてご審議いただきたいと思っておりますが、併せて 1 枚目のリストをご覧いただきたいと思っております。ここでもいつも話題になりながら議論されるのですが、類似の学会が複数あります。それぞれが申請をして、一方を認めると、片方がいつまでも入れなくなるというような問題が当然出てまいります。従来もプライマリ関連の 3 つの学会がそれぞれ申請をしていましたが、医学会長のほうからいろいろアドバイスをさせていただいて、統合するなり、あるいは連合のような形で申請をしてはどうかということで、結果的には日本プライマリ・ケア連合学会という形で、医学会の分科会の 1 つとして加盟が認められている経緯があります。

そういうことで、お手元のリストのなかで、たとえば 2 番の日本人間ドック学会、3 番の日本総合健診医学会、この学会の設立の経緯はそれぞれ違うわけですが、中身について非常に重複することがあるということもありましたので、こういった学会については何らかの相談をしていただくことが必要かなと思っております。

それから、8 番目の日本骨粗鬆症学会と 21 番目の日本骨代謝学会、これもやはりかなり似ている部分があります。それぞれ違うとおっしゃっているのですが、評価検討委員会のほうでは、やはりこういう学会も何らかの形で相談してもらった必要があるのではないかというような議論が出ました。

今回は 22 の申請でたった 1 つだけということで、厳しすぎるというお話もありましたが、そういった議論もありましたことを報告して、今回はこの 1 つの申請を認めるということをご審議いただきたいと思っております。

議長(高久日本医学会長) どうもありがとうございました。今、久道先生からご報告がありましたように、日本病態栄養学会が新しく日本医学会に加盟することについて、どなたかご意見あるいはご質問はおありでしょうか。

松岡評議員 英文誌なし、和文誌なしとなっていますが、これは本当でしょうか。

久道副会長 従来、5年ぐらい前までの選考規程では、英文の雑誌を年間どのぐらい出しているかということも厳しいチェックの項目に入っていました。必ずしも英文で発表することが学会としての是非にあたるかどうかという議論がありました。たとえば社会医学系の学会の論文は、国内におけるいろいろな諸問題を研究対象にするということもあって、和文で出すことは英文よりも良いという発言もありました。そういうことで、英文で発表することの有無が学会加盟の是非に直接影響しなくなったという状況があります。

松岡評議員 質問の意図が伝わっていないと思うのですが、和文誌がなしと書いてあるのは本当かということをお伺いしました。

久道副会長 和文雑誌ですね。これはミスでしょうか。すみません、これは今ちょっと失念していましたが、私の記憶ではあると記憶していました。

松岡評議員 それはとても重要なことなので、確かだということのうえで、承認ということをお考えたいのですが、やはり学術書をもし出していないとするならば……。

久道副会長 今調べましたら、和文誌はありません。どうも失礼いたしました。

松岡評議員 ありがとうございます。

議長(高久日本医学会長) ほかには何かおありでしょうか。それでは加盟をお認めいただきたいと思えます。どうもありがとうございました。

日本医学会 医学雑誌編集 ガイドライン(案)について

もう1つ、ご承認をいただきたいことがあります。お手元の資料7にあります「日本医学会 医学雑誌編集ガイドライン」、これは(案)になってい

ますが、これをお認めいただきたいと思えます。この(案)ができる経緯について簡単にご説明いたします。これは日本医学雑誌編集者組織委員会から、医学雑誌編集ガイドラインの発行について、この評議員会で承認していただきたいというご要望がありました。

日本医学雑誌編集者会議は、Japanese Association of Medical Journal Editorsで、JAMJEと呼んでいます。この会議は日本医学会の各分科会の機関誌の編集者によって構成される組織として、平成20年8月1日に発足しています。活動の企画は日本医学雑誌編集者組織委員会が担当して、組織委員会の委員長は東京大学大学院医学系研究科附属医学教育国際研究センターの北村聖教授が務めておられます。

編集ガイドラインの必要性ということですが、JAMJEでは国内の医学雑誌の質の向上に向けて、平成20年の設立以来、総会、シンポジウムの開催、アンケート調査などを実施してきました。これらの活動におきまして、医学雑誌の編集者が扱うべき問題は、表記法の統一から査読システム、雑誌の質の向上、倫理的な事項など、多岐にわたることが認識されまして、各編集委員会ですべての問題を把握することは困難であるため、編集業務の手引きとなるためのガイドラインを作成する必要が委員会で議論されました。その結果として、お手元にあります編集ガイドライン(案)の作成に至ったわけですが、この作成の経緯をご報告いたします。

JAMJEは医学雑誌編集ガイドラインを発行するにあたり、まず組織委員会で国際的な標準に準拠した原案を作成いたしました。国際的な標準として参照したのは、医学雑誌編集者国際委員会(ICMJE)、世界医学雑誌編集者協会(WAME)、出版倫理委員会(COPE)から公表されている推奨類や声明書類です。

さらに国内事情を考慮するために、各分科会を対象として編集の現状についてのアンケート調査を実施したり、ガイドラインの草案を各分科会にお送りしてコメントをいただいたりしています。さらに日本医学会利益相反委員会との連携という

ことで、編集者会議のガイドラインのなかで COI に関する事項は、日本医学会利益相反委員会と協議を重ね、見解の統一を図っています。

お手元にありますこの編集ガイドライン（案）の概要ですが、各分科会からのコメント、日本医学会利益相反委員会との協議の内容を反映して、JAMJE としてとりまとめた医学雑誌編集ガイドラインの最終案を、本日案としてお配りいたしました。

ガイドラインの構成は、目次にありますように、編集者の自由と責務、医学雑誌の質の向上への取り組み、著者と医学雑誌・編集者の倫理規範の策定、海外の編集者会議との連携の4つの案となっています。これらの4項目は、JAMJE が活動目標として挙げている内容に相当するものです。

編集ガイドラインには、記載方法や表記方法の統一のためのスタイルマニュアル的な要素も求められますが、本ガイドライン（案）は、雑誌の質の向上に向けた方策や編集にかかわりのある倫理的側面など、今後編集者が配慮することが求められるテーマを中心にまとめられています。しかしながら、この本ガイドラインの内容は固定したものではなくて、編集をめぐる内外の動きを考慮して、随時更新していくことを想定しています。

最後になりますが、国内において医学論文の編集マニュアルは出版されていますが、医学雑誌の編集に特化したガイドラインはこのガイドラインが初めてです。各分科会の機関誌が各誌の編集方針をまとめる際の手引きとして参考になるガイドラインですので、お手元の資料を確認のうえ、発行についてご承認をいただきたいと思いますが、これにつきまして何かご意見・ご質問はありますか。

これは一応お持ちになって、もし何かご意見がありましたら、私のほうにお知らせいただければ、

北村聖教授に各学会、特に評議員会の皆さん方のご意見として伝えます。またあとでよく読んでいただければと思いますので、よろしいでしょうか。それでは、この案をお認めいただいたものとさせていただきますと思います。

私どもが用意した事項は以上ですが、どなたか本日の議題についてご意見・ご質問等がありましたら、お伺いしたいと思います。どうぞ。

川名評議員 日本化学療法学会から来ております川名と申します。事前にお伝えしてありますが、査読者の COI につきまして日本化学療法学会の意見を述べさせていただきたいと思います。査読者は当然、自身の COI が影響する場合には、その原稿の査読は辞退するべきであるというのは、まさにそのとおりだと思うのですが、その査読者が編集長に査読にかかわる COI 状態を申告するというのをルール化しますと、査読の依頼の際に COI の申告も併せてお願いしなければいけないということになります。現時点でも査読を引き受けてくれる方が非常に少なくて困っているという状況もあるので、さらにハードルを高くすることにつながるのではないかとこのことを危惧いたしますというのが、日本化学療法学会の意見です。

議長(高久日本医学会長) 分かりました。確かに査読の方はどうしても限られますので、COI の問題が絡んでくると難しい点があると思います。その点は北村教授のほうにお伝えいたしました。もう1回検討していただくようにいたします。どうもありがとうございました。

ほかにどなたかご意見はおありでしょうか。もしなければ、少し早めですが、この評議員会を閉めさせていただいてよろしいでしょうか。では、どうもありがとうございました。

午後2時10分閉会